

「タンポポ調査・西日本2010」実行委員会 第8回スタッフ会議報告

- 【日時】 2009年12月6日(日) 午後1時～4時45分
【場所】 大阪自然環境保全協会事務所
【出席者】 布谷(滋賀)、鈴木(兵庫)、佐藤・伊東・高島・木村・横山・神田・宮田・南・河合・廣崙(大阪)、久保田(奈良)、村田・今村(京都)、末広(香川)、小川(徳島)、狩山(岡山)、井上(島根)、有川(鳥取)、松井(愛媛) 11府県21名参加
【司会】 高島(大阪自然環境保全協会) 【記録】 木村(同)
【案件】

(1) 前回スタッフ会議の報告(第7回スタッフ会議報告2009.10.11参照)

- ① 日時 2009年10月11日(日) 午後1時～4時半
- ② 場所 大阪自然環境保全協会事務所
- ③ 出席者 布谷(滋賀)、鈴木(兵庫)、佐藤・伊東・高島・木村・横山・宮田・南・砂川(大阪)、久保田(奈良)、川村(三重)、小川(徳島)、末広(香川)、松井(愛媛)、藤川(高知)、有川(鳥取) 以上10府県17名
- ④ 主な案件
 - ・各府県の予備調査の実施状況(取組みとサンプル数)
 - ・予備調査の中間報告(追加修正版)と今後のデータ解析について
 - ・来年度の本調査に向けて(調査方法や調査用紙などの改善)
 - ・実行委員会予算について
 - ・ホームページやメーリングリストについて
 - ・今後の予定

(2) 予備調査結果報告書・カラーチラシについて

- ① 調査結果のまとめに関する前回までの結論
 - ・報告書には下記のデータとマップを掲載する。
 - 1) 府県別の基礎的なデータ処理→クロス集計結果から各府県別の分布状況を比較
 - 2) 基本的な分布マップの作成: 3次メッシュでの種類別分布地図
 - ・しかし、外来種と在来種の分布を比較するためのマップについては、今後のスタッフ会議で検討することになった。

<前回までの経過>

- ・外来種と在来種の分布状況を表す西日本全域の地図をどのような方法で作成するかについては、第6回スタッフ会議で、近畿2005のデータに基づく比較例(佐藤・伊東両氏より)を元に議論したが、どの方法がベストであるかは結論が出ず、最終的に集約されたデータを元に様々な方法で解析して比較してみる事となった。今回の比較でも2×2メッシュなら差は小さいので、そのサイズでの外来種の割合を示す地図を佐藤氏に作っていただくことになった。
- ・また、小川氏から前回の調査データに基づいた「有り有り地図」が提案されたが、今回のような広い地域を対象とした場合、各地域によって調査地点の密度が異なる中で、どの方法がよいかについて結論は出ず、小川氏に今回のデータを用いて地図を作成していただき、比較しようということになった。

<前回のスタッフ会議のまとめ(文責:木村)>

- ・大きな問題点は、大阪などの近畿地方の多くの府県(日本海側や山間部を除く)や、岡山県・香川県・徳島県では、元々2倍体の在来種(主にカンサイタンポポ)がたくさん分布していたので、それらの在来種と新たに侵入した外来種との比率が、環境指標として有効であったが、それ以外の地域では、元々在来種の密度が低いところに、外来種が侵入してきたので、同じレベルで環境の指標として使えないことがはっきりしたところにある。
- ・もう1つの問題は、前回の議論でも話題になったように、各府県の面積に対する調査地点の密度が大きく異なるので、それらの結果を統一的に表すためにどのような分布地図を作ればよいかという

(統計学的な?)問題である。

<今回のスタッフ会議のまとめ>

- ・1つの地図に誤解のないように結果を表すことは難しいとはいえ、今回の西日本全域の調査結果をわかりやすく表す地図を作成したいということで、議論を続けた。
- ・今回は小川氏より、メッシュ毎に外来種の比率を出すというデータ処理方法は、今回のような各調査地点で1種類について1サンプルずつを調査するという方法を用いた場合においては、分布密度が上がるほど外来種の比率は50%に近づくというシミュレーション結果が示され、統計的には問題があることが指摘された。その上で、
3次メッシュ毎に在来種と外来種が発見されたか否かを同時に示す「ありあり地図」を次の2種類作成して提案された。
 - 1) 3次メッシュを外来種のみ・両種がある・在来種のみで分類する方法
 - 2) 1つのメッシュを4分割して在来種と外来種の存在を示すプロットを打つ方法
- ・本日の会議では、今回の西日本全体の予備調査結果の集約においては、外来種の比率を数段階で示す地図は使用せず、在来種と外来種の分布を比較する場合は小川氏の作成していただいた「ありあり地図」を用いることになった。各府県別の報告については、各府県にお任せしたい。

② 予備調査報告書の発行について

1) 目的

- ・予備調査参加者への報告と本調査への協力依頼
- ・データが不足していて本調査で重点的に調査すべき地域を明らかにする。
- ・調査の意義・目的などを伝える。

2) 形式(2005年の近畿タンポポ調査の報告書と同じ形式)

- ・A4判で印刷業者には出さず、内部印刷。
- ・冊子としては100~200部(もう少し多いほうがよい?)を内部印刷して発行し、他はホームページにアップしたものを各府県で増プリして活用する。

3) 目次案と執筆分担

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. はじめに(調査の目的・意義)ー1ページ2. 調査の概要 ①組織・経過ー1~2ページ ②方法ー1~2ページ3. 調査結果<ol style="list-style-type: none">①全体のまとめー4~5ページ(木村)、分布地図ー4~8ページ(佐藤)②各府県別の結果報告ー24(各府県1ページ、または2ページ)4. 雑種タンポポの解析結果ー4~5 (伊東)5. おわりに6. 参考資料ー調査用紙(4)・サンプル処理マニュアル(2)など <p>*合計: 50ページ程度・・・編集・印刷は事務局で行なう(紙・インキ実費)</p> |
|---|

③ 提出されている原稿の検討(別紙参照)

- ・未提出分の催促・・・早急に行い、12月末日までに提出していただく。
- ・修正原稿の最終締切り・・・1月15日(金)必着で事務局まで(添付ファイルで)
- ・その後、編集して、印刷・製本は、1月23日(土)までに行う予定。
- ・発行・・・1月30日:第3回実行委員会当日

④ カラーチラシについて

- ・前回の近畿調査の際と同様に、分布図や識別のためのタンポポのカラー写真が入ったチラシ(A3判両面印刷)を作成して、本調査で調査用紙と一っしょに配布。
 - ・印刷枚数:最低2万枚→4~5万枚、印刷費用:枚数によるが1枚8~10円程度
 - ・前回の近畿版を参考にして、在来種の種類もやや増えているので、改訂版を作成
- *原案を鈴木氏に作成していただく。在来種の分類については、高知で作成されたものも参考にする。
- 予備調査結果の概要も収録。
- ・原稿締切・・・1月15日(金) MLで皆さんに見ていただき、意見を受ける
 - ・最終稿を、1月30日(土)の第3回実行委員会で配布。最終的な修正を加える。

- ・2月中旬までに印刷して、各府県事務局へ調査用紙とともに発送。

(3) 2010年度本調査に向けて

① 調査用紙の改訂(別紙参照)・・・基本的な調査方法は変更できないが、調査用紙を分かりやすく改訂する。小川氏(徳島)の原案に基づいて、前2回のスタッフ会議で検討した結果を元に、最終的な修正案をMLで流していただき、それをもとに議論。今回で最終的な結論を出したい。

* 調査用紙の送付先住所(各府県の実行委員会事務局)について

- ・変更する場合は、早急にご連絡下さい。MLで確認することになった。

変更予定の府県

- ・奈良県(送付先住所を奈良教育大学に変更)
- ・三重県(誤りがあったので修正)
- ・

② 本調査の調査体制について (前回のスタッフ会議の意見)

- ・全体的な体制は現在のままでいく。・・・全体の実行委員会と府県実行委員会
- ・予備調査で調査データが集約できなかった山口県・福岡県については、事務局から12月に今回の調査の内容や調査体制について説明に行く。
- ・調査データが少なかった府県や、各府県でデータの少なかった地域については、各府県で補充調査の計画を立てて、空白地域ができるだけ少なくなるようにする。
- ・予備調査の結果から考えて、大部分の府県では一定程度の調査地点が確保できるだろう。予備調査でデータが少なかった府県には、近隣の府県からも調査に協力する体制をとれないだろうか？
- ・各府県で「調査説明会」などを行う際には、MLやホームページを通して、他の府県にも呼びかけ、近隣の府県からの参加も認めてほしい。

(4) 第3回実行委員会について

各府県の実行委員の方々にはできるだけ多数集まっていたきたい。各府県4名ずつくらい(1名は必ず)ご出席ください。部屋の大きさ(定員84名)の関係であまり広くは広報しません。

【名称】「タンポポ調査・西日本2010」第3回実行委員会

【日時】2010年1月30日(土) 13:30~16:30

【場所】大阪市中央公会堂(地下鉄淀屋橋下車3分) 大会議室(地下1階・定員84名)

【内容】

- ・司会(高島)
- ・あいさつ 代表:布谷知夫氏(5分)
- ・講演「西日本のタンポポの分布と分類」 兵庫県立人と自然の博物館:鈴木武氏(40分)
- ・報告1「中国地方の予備調査結果から」 倉敷市立自然史博物館 狩山俊悟氏(20分)
- ・報告2「四国地方の予備調査結果から」 徳島県立博物館 小川誠(20分)
- ・報告3「2009年予備調査結果報告と本調査内容説明」 事務局:木村 進(30分)
- ・第3回実行委員会議事・各府県の取り組み報告・今後のスケジュール 事務局(30分)

【参加費】300円(資料代、会場費)

【スタッフの動き・役割分担】・・・役割分担は今後大阪のメンバーで相談して決定。

10時30分:搬入担当スタッフは、保全協会集合→印刷作業・準備物搬入→途中で昼食
(担当者:木村・高島・横山)

12時20分:準備スタッフ(上記+)は中央公会堂集合→会場準備開始

13時:受付開始、4人(担当者:横山)

【配布物と担当者】・・・配布物は基本的には100枚準備

- ① 受付参加票・当日のプログラム・・・高島
- ② 調査用紙(案)・・・小川→事務局

- ③ 予備調査報告書(200部)・・・事務局
- ④ 2010調査実施要項(200部)・・・木村
- ⑤ カラーチラシ(案、100枚)・・・鈴木
- ⑥ その他(講演レジュメ?)

<役割分担> 予約・渉外(高島)、支払い(宮田)、掲示物作成(高島)、機器設営()
 プロジェクター(), パソコン(), 照明(), 写真()

* 午後の使用は13:00~17:00(カギの受け渡しは12:50~)で会場費13,080円+準備のため「前時間延長30分」(代金1680円)を申し込み、準備スタッフは12:20中央公会堂集合

* 拡声装置・ワイヤレスマイク1台追加・大型スクリーン予約(7500円)

(5) 実行委員会予算について

- ① 現在の残金：現時点では前回は報告した「28万円」に加えて、助成金30万円が確定したので、残金は約60万円となった。
 - ・ 収入：前回調査の残金(29万円)+大阪市大伊東・名波氏よりの寄付(4.5万円)+今回の報告書送付前金(約5万円)+武田科学振興財団の助成金(30万円)+伊東氏より(日本生命財団)30万程度は支出可能。
 - ・ 主な支出：会議の会場費など(約10万円)・調査用紙の印刷費用(伊東氏から)
- ② 今後の予算見積もり
 - ・ 雑種の解析については、伊東先生が受けられる科研費で対応可能。
 - ・ 当面は、予備調査報告書(内部印刷なので、紙代程度)・カラーチラシ(3万枚として30万円?)と本調査の調査用紙の印刷費用(30万円)が最低限必要。
→カラーチラシは伊東氏からと武田の助成金を当てる。
 - ・ その後は、最終の調査報告書の発行費用を何らかの助成金などで確保したい。
* 各府県実行委員会独自で助成金などを申請していただいてもかまいません。
- ③ 助成団体の選択
 - * 前回調査時の助成金：日野自動車(45万)・タカラハーモニストファンド(50万)・NACS-J(80万)
 - ・ 河川環境管理財団(175万)

| 助成申請団体 | 締切り | 金額 | 申請 | 結果 | 備考 |
|--------------|------|--------|----|----|------------|
| 1 西日本博物館ネット | 済み | 10万円 | 鈴木 | ○ | 6万円を事務局へ |
| 2 富士グリーンファンド | 済み | 200万円 | 鈴木 | × | |
| 3 武田科学振興 | 済み | 30万円 | 木村 | ○ | 助成期間は2年間 |
| 4 NACS-J | 済み | | 鈴木 | × | |
| 5 三井物産 | 済み | 500万 | 木村 | | |
| 6 花の万博協会 | 済み | 100万 | 鈴木 | | |
| 今後の助成申請候補 | 締切り | 金額 | 申請 | 結果 | 備考 |
| 7 セブンイレブン | 1/31 | 上限360万 | | | 2~3年間 |
| 8 地球環境基金 | | | | | |
| 9 ニッセイ財団 | 4/14 | 平均200万 | | | 総額4000万,研究 |

(7) そのほかの検討事項

- ① 「タンポポ調査・西日本2010」実行委員会のホームページについて
 - ・ 予備調査結果の分布地図をアップする。→予備調査報告書もアップする予定。
 - ・ タンポポアルバム(写真)のページを充実。MLなどの写真で可能なものはHPで見れるようにする。
(以前にHPにアップしたものの利用について検討)
 - ・ そのほか、各府県の実行委員会のHPなどともリンクさせ、活用できるものはみんなで共有していく。
 - ・ 調査用紙が出来次第アップする。予算の関係で多数印刷できないので、できるだけHPから出力していただく。
 - ・ そのほか、本調査実施に向けて、内容の充実を図っていく。

② メーリングリストについて……実行委員会用のMLは活用されているが、一般用のMLは書き込みが少ない。もっと簡単なタンポポの話題でもいいので、活発に書き込みをお願いしたい。調査結果の概要も順次流していきたい。参加希望者は京都の村田氏へ連絡すること。

③ (名義)後援団体について……文部科学省は承認されなかったもので、削除。

*COP10との協賛も考えてはどうか？ 事務局で申請する。

(8) 今後のスケジュール

| | |
|----------------|----------------------|
| 2009年12月 6日(日) | 第8回スタッフ会議(本日) |
| ～12月末まで | 本調査時の事務局の確定 |
| 2010年 1月15日(金) | 予備調査報告書原稿最終締切 |
| 1月30日(土) | 第3回実行委員会(於大阪中央公会堂) |
| 2月上旬 | 調査用紙・カラーチラシの印刷 |
| 3月～4月 | 現地説明会・講習会 |
| 3月～5月 | 本調査の実施 |
| 6～12月 | 本調査結果の解析(西日本全体・各府県別) |
| 2011年 3月まで | 最終報告書の作成 |

<当面の予定>

| ① 本調査に向けた資料作成 | 最終原稿締切 | 印刷 |
|----------------|----------|-------------|
| 1) 予備調査報告書 | 1月15日(金) | 1月23日(土)まで |
| 2) 本調査実施要項……木村 | 1月15日(金) | 1月28日(日) |
| 3) カラーチラシ……鈴木 | 1月30日(土) | 2月上旬(10日まで) |
| 4) 調査用紙……小川 | 1月30日(土) | 2月上旬(10日まで) |

② 第3回実行委員会：2010年1月30日(土) 13:30～(詳細別項)

③ 第9回スタッフ会議

- ・日 時：2月28日(日) 13:00～
- ・場 所：大阪自然環境保全協会
- ・案 件：2010本調査実施にあたって 調査説明会の開催予定など

④ 第10回スタッフ会議

- ・調査終了後の6月頃を予定。サンプル検討会も兼ねるか？

⑤ 調査説明会・現地説明会の開催

- ・全体のを開催するか……現時点では開催しない。
- ・府県別の説明会はできるだけ他府県からの参加も可能としてほしい。決定次第、メーリングリストで流して下さい。ホームページにアップします。

*開催予定の府県

奈良県：3月6日 於 奈良教育大学

鳥取県：

岡山県：

福岡県：